

第 64 回役員会 議事要録

日 時：平成 27 年 1 月 26 日(月) 13:30～14:30

会 場：大学本館 E-703 会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、梶原理事、江本理事
(オブザーバー) 中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長

報 告

- 1 教員の採用について
- 2 グローバルシンポジウムの結果報告について
- 3 平成 26 年度卒業予定者の就職内定状況について(12/1)
- 4 産学官の連携促進に向けた取組みについて
- 5 北九州市立大学ブランド商品 第 2 弾「Bambread：合馬のファイバーラスク」について

報告 1 教員の採用について

<質疑応答>なし

報告 2 グローバルシンポジウムの結果報告について

<質疑応答>

- 今回で何回目か。
- 今回で 3 回目である。

報告 3 平成 26 年度卒業予定者の就職内定状況について(12/1)

<質疑応答>なし

報告 4 産学官の連携促進に向けた取組みについて

<質疑応答>

- 主な件についてご説明いただいたが、全体の件数はどれくらいか。また、申請は大学を經由しているのか、それとも本人が直接申請しているか。
- 国からの受託研究と企業からの受託研究があり、今回は主な事例を紹介している。
- 平成 25 年度の実績は、約 190 件である。現在、全ての大学において、研究費不正防止の仕組みを構築するよう国から通達があっており、本学でも見直しているところである。科学研究費補助金のように大学の事務局を通して申請するもの以外で、個人が申請するものについても寄付金行為等で受け入れることを検討している状況である。
- 寄付金行為とはどういう意味か。
- 研究者が企業から寄付金を受託することである。そのうち一部は間接経費として大学に受け入れることもある。
- 企業からの共同研究は関係経費として 10%が大学の収入となっている。間接経費は、受け入れた研究経費を管理するための事務経費である。国からの研究費では、科学研究費補助金の間接経費が 30%である。
- 間接経費はこれまでも取得されていたのか。制度が変わるのか。

- 科学研究費補助金は全て大学で把握しているが、それ以外については、大学で把握できていない部分もあり、把握していない分の間接経費は取得していない。
- 他大学でも過去に研究費の不正が起きている。研究不正は、研究費の不正と、研究の内容の不正がある。現在は不正が起きないように制度設計を行っている。
- 企業から研究に関するアドバイスを求められる場合もあるのではないか。
- アドバイザーの場合は、研究費ではなく、大学に兼業の手続きを行ったうえで報酬をいただいている。
- 報酬は大学の収入になるか。
- 大学の収入にはならず、個人の収入となる。大学の収入となるのは、研究費の間接経費のみである。
- 現在、外部資金の額が減少している。学部開設当時に招へいた著名な教員が外部研究費を獲得していたが、退職されたため獲得が減少している。そのため、環境技術研究所を設立して研究を促進しているところである。
- 外部研究費の中で公的な部分は、科学研究費補助金と補助金収入か。
- 受託研究や共同研究の中にも一部公的資金がある。
- 金額が3億円減少しているが、この理由は何か。
- 現在、積極的に獲得に向け取り組んでいるが、新しい取り組みとして、他大学の教員をアドバイザーとして、効果的な申請書類の作成方法などの講習会を行った。
- 学部開設当初に招へいた権威ある教員が、3～5年の大型の外部研究費を獲得していたが、その教員たちが退職する頃に、外部研究費も終了した。今いる教員で新たに獲得するため、様々な取組を行っているところである。
- 第1期中期計画では国際環境工学部の獲得に頼っており、文系学部での獲得が課題であった。第2期中期計画では、大学全体で目標を達成するよう努力している。国際環境工学部で獲得が減少した分は、文系学部で補おうとしている。国際環境工学部は獲得金額が大きいいため、新たなプロジェクトの申請を行っていく予定である。その獲得する方策を検討するため、2年前に環境技術研究所を設置し、少しずつ成果は出ていると実感している。
- 教員が獲得にやる気を出すための仕掛けがないのではないか。
- 北方キャンパスにおいては、3年に1度外部資金を申請することを義務付けている。また、科学研究費補助金を複数回獲得している教員がレクチャーを行っており、若手・中堅の研究者の出席状況は良い。それにより獲得件数は伸びているが、金額は大きくない。申請しない教員に対して、これまでは所属長のヒアリングのみであったが、今後は研究費を減額することとしている。
- 市外企業との共同研究が少ない。地方の企業から受託研究や共同研究を進めていかないといけない。

報告5 北九州市立大学ブランド商品 第2弾「Bambread：合馬のファイバーラスク」について

<質疑応答>

- どこで販売するか。
- 製造元の直売所、井筒屋、そして本学の生協でも販売する。
- 「トクホ（特定保健用食品）」の取得はできないか。
- トクホの取得は難しい。
- 販売はいつからか。
- 2月下旬に記者発表を行い、その後販売予定である。
- 価格が高いのではないか。もう少し安くした方が買いやすくなる。